

【演習ガイダンス】

サービス管理責任者・
児童発達支援管理責任者更新研修

更新研修の流れとポイント

更新研修の目的・獲得目標

目的

- ①行政の動向や制度改正等の最新の情報(アップデート)を得る
- ②サービス管理責任者・児童発達管理責任者としてのこれまでの業務内容を振り返るとともに、知識・技術の更なる向上を図る

	研修項目	獲得目標
①	障害者福祉施策及び児童福祉施策の動向	最新の動向を学習することにより利用者の制度的な環境の変化を理解する
②	サービス提供事業所としての自己検証	各自事業所の取組状況や地域との連携の実践状況を出し合うことにより、コンプライアンスを理解し、今後の事業所としての取組を明確して実践に活かす
	サビ児管としての自己検証	サービス提供責任者としての自らの業務を振り返り、支援のあり方や地域とのかかわり方、今後自ら取組むべき課題を明確にして実践に活かす
	関係機関との連携	地域の相談支援専門員や関係機関、さらに(自立支援)協議会との連携状況を再確認して実践に活かす。 (自立支援)協議会の役割を理解する。

サビ児管更新研修の進め方

都道府県で更新研修を実施するに当たり、研修の構造及び演習の進め方等について理解し、演習講師等に説明することが目的です。そのため、①～③の各セッションの役割や進め方等の確認を行います。



サビ児管更新研修の演習スケジュール

- 10:40～10:50 演習ガイダンス
- 10:50～11:00 演習の役割決め等
- 11:00～11:48 演習1 事業所としての自己検証
- 11:48～11:56 演習1 全体討議と振り返り
- 11:56～12:50 昼食休憩
- 12:50～14:35 演習2 サビ児管としての自己検証
- 14:35～14:45 演習2 全体討議と振り返り
- 14:45～14:55 休憩
- 14:55～16:11 演習3 関係機関との連携等についての自己検証
- 16:11～16:21 演習3 全体討議と振り返り
- 16:21～16:40 個人ワーク(決意表明)

グラントルールの説明

- 職場環境や経験年数、職種の違いなど、研修を受講される方の層が幅広い。
- 演習がスムーズに行えるよう、演習を行う上でのルールを受講生にも知っていただくことが大切です。

グランドルールの例:①

研修(グループワーク)参加者の留意点

- 周りの人に関心を持って、積極的に参加しましょう
- 他の方の発言に敬意をはらいましょう
- 自分と意見が違ったとしても相手の良いところに注目しましょう
- 他の方に自分の意見を押し付けないようにしましょう
- 他の方の発言に共感を示し、耳を傾け理解しようとすることを伝えましょう
- 一人一人の発言を大切にし、一人で話し続けることのないようにしましょう
- 発言の意味が良く分からない時は、そのままにせず分かりやすく説明をしてもらいましょう
- 専門用語や地域性、自分の経験のみでの発言は十分に配慮しましょう
- 自分の意見にこだわり、議論が同じ所で繰り返されないように配慮しましょう
- ユーモアを忘れずに

グランドルールの例：② 研修(グループワーク)参加者の留意点

- 笑顔を大切に、積極的に参加しましょう
- 忙しいのは皆同じ、と知りましょう
- 互いの話を良く聴いて受け止め、共感しあいましょう
- 発言は長くて90秒と心がけましょう
- 『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の損』を念頭におきましょう
- 感謝と励まし、相互尊重の精神で臨みましょう
- ドッチボール禁止、キャッチボールをする感覚を共有しましょう
- 会議後の立ち話で決定が変わることはないを知りましょう

演習の進め方【各セッション共通】

1. 演習の進行は受講者が行い、演習講師は進行役のフォローや取りまとめる際の助言等を行います。
2. 報告及び質疑の時間は厳守してください（タイムキーパーは演習講師が行う）。
3. できるだけ多くの受講生が発言できるようにしてください。
4. 批判的な発言が目立つようならグラウンドルールを読み直しましょう。

演習1スケジュール

○役割分担(進行、記録、発表役)と発表の
順番を決める(課題1～3まで)

1

○演習1 事業所としての自己検証

○演習1 全体討議と振り返り

事業所としての自己検証

サビ児管の業務には、利用者への支援から支援員への助言・指導、苦情対応や管理者への支援状況報告など、その役割は多岐にわたります。しかし、サビ児管業務を行うに当たっては、サビ児管が業務を行う環境(風土)を整えることも同時に必要です。ここでは組織環境について確認していきます。

研修受講ガイドランス

事業所としての自己検証

役割決め演習のポイント

事前課題1

全体共有

- ① 役割分担
 - ・演習1～3の役割分担(進行、記録、発表役)と順番を決める。
- ② 事前課題1の報告【発表(3分)→質疑(1分)】
 - ・「良いと思う取組み」を付箋にメモをとる。その際1枚の付箋に1つの事柄を記入するよう促す。
- ③ 事前課題報告での「良いと思う取組み」を共有する(20分)
 - ・付箋にメモしたものをKJ法で整理し、模造紙にまとめる。
- ④ 全体共有(発表)(4G×2分=8分)
 - ・発表Gは演習統括が選出する。

演習1の手順 事業所としての自己検証

①事前課題1の報告【発表時間1名4分×7名＝28分】

- ・発表(3分)→質疑(1分)を行う。
- ・「良いと思う取組み」を付箋にメモをとる。その際1枚の付箋に1つの事柄を記入するよう促す。

②報告の「良いと思う取組み」を共有する【20分】

- ・付箋にメモしたものをKJ法で整理しシートにまとめる。

③全体共有(発表)【4G×2分＝8分】

- ・発表Gは演習統括が選出する。

演習1の留意点

1. 事前課題の内容整理は、批判的なことは避け、良い取り組みと思われた内容について意見交換し、自身の事業所でも参考にして取り組んでみたいことを整理する。
2. 報告時の「良い取り組み」として見る視点として、組織の工夫として、①情報伝達や共有方法(日常の業務的コミュニケーション、会議等)、②サビ児管のフォローアップ体制(サビ児管が困ったときの相談できる体制)、③チームアプローチ(管理者や看護師、支援員など事業所内の連携の工夫)など。
3. まとめとして、利用者支援に当たって、サビ児管として個人のスキルを高めていくことの他に、支援を行う環境・仕組みを組織として整えることも必要なことから、サビ児管と管理者とで課題を共有し、改善に向けて協議することも必要であることを伝える。

演習1：発表

演習2スケジュール

○演習2 サビ見管としての自己検証

○演習2 全体討議と振り返り

サビ児管としての自己検証

サビ児管の業務内容は多岐にわたりますが、ここでは、①個別支援計画の作成(意思決定支援の展開)、②支援記録、③会議の実施、④支援員への技術指導及び助言、⑤苦情解決、⑥虐待防止(権利擁護)、⑦機密の保持について自己の業務を振り返ります。そして、サビ管として行うべき業務を整理します

研修受講ガイダンス

サビ児管としての自己検証

演習のポイント・グラドルール

事前課題2

全体共有

- ①演習ガイダンスで説明された演習のポイントや進め方、グラドルールについて共有
- ②事前課題2の報告【報告(10分)→質疑(2分)を行う】
 - ・報告を通して「どのようにすれば10点に近づけるか」について、改善策やアイデアを付箋にメモをとる。
- ③報告に対して改善策やアイデアを共有する(分)
 - ・共有の仕方は、それぞれがアイデアを出し合い、どこでもシートに整理する。
- ④全体共有(発表)(5G×2分=10分)
 - ・発表Gは演習統括が選出する。

演習2の手順 サビ見管としての自己検証

- ・発表の時間は限られていることから、事前にイメージを持つため発表前に読み込む。この時間に報告者は発表内容の整理を行う。

①事前課題2の報告【発表(10分)→質疑(2分)=86分】

- ・「どのようにすれば10点に近づけるか」について、改善策やアイデアを考える

②報告に対して改善策やアイデアを共有する【20分】

- ・それぞれがアイデアを出し合い、シートに整理する。

③全体共有(発表)【5G×2分=10分】

- ・発表Gは演習統括が選出する。

演習2の留意点

1. 「改善策・アイデア」は、どのようにしたら10点に近づけるかについて、自分はこのようにしたら改善したなどの工夫、または周囲の協力によってできていることを付箋にメモする。
2. 事例選出は演習1で報告した以外の受講者とする。進行・記録等は同一の人でもかまわない。
3. まとめとして、サビ児管として必要な業務ができていないことがあるかもしれないが、落胆するのではなく、まずは役割業務を理解し、スキルアップしていくことが大事であることを伝える。

演習2：発表

演習3スケジュール

- 演習3 関係機関との連携等についての
自己検証

- 演習3 全体討議と振り返り

関係機関との連携等の自己検証

①関係機関との連携、②相談支援専門員との連携、③担当者会議の開催、④(自立支援)協議会への参加について自己の業務を振り返ります。特に、相談支援専門員との連携は欠かせませんので、どのような連携が望ましいかを検討します。また、事業所外で生じる問題を地域課題として捉え、解決に向けて関係機関との連携や(自立支援)協議会の活用について理解を深めます。

研修受講ガイダンス

関係機関との
連携等の
自己検証

演習のポイント・
グラドルール

事前課題3

全体
共有

個人
ワーク

- ①演習のポイントや内容、進め方、グラドルールの共有
- ②事前課題3の報告【発表(5分)→質疑(2分)】(56分)
 - ・報告の中で、「どのようにすれば10点に近づけるか」について、改善策やアイデアを付箋にメモをとる。
- ③事前課題報告での「改善策・アイデア」を共有する(20分)
 - ・共有の仕方は、それぞれがアイデアを出し合い、どこでもシートに整理する。
- ④全体共有(発表)(5G×2分=10分)
 - ・発表Gは演習統括が選出する。

演習3の手順 関係機関との連携についての自己検証

①事前課題3の報告【発表(6分)→質疑(2分)=56分】

- ・「どのようにすれば10点に近づけるか」について、改善策やアイデアを考える

②報告に対して改善策やアイデアを共有する【20分】

- ・それぞれがアイデアを出し合い、シートに整理する。

③全体共有(発表)【5G×2分=10分】

- ・発表Gは演習統括が選出する。

演習3の留意点

1. (自立支援)協議会は、障害者の地域での生活を考える場であることから、事業所が協議会に参画する意味として、①利用者は地域の支えもあって生活していることから、事業所も地域の視点を持つことが大事、②対応が難しい利用者への支援に当たっては、専門機関や地域の協力や理解が必要となること、③災害時、など様々なことが考えられることを伝える。

2. 相談支援専門員や関係機関との連携は、サビ児管が主となってどのように連携するか、ということを促す。

演習3：発表

個人ワーク 関係機関との連携についての自己検証

- ①事前課題2・3の点数の再記入
- ②研修の学びを生かして、サビ児管としての新たな取り組みを事前課題2・3に記入とグループ内で決意表明